



スワン・ソング Swan
Song (1975) ブライア
ン・M・ステイブルフ
ォード (菊地秀行訳)
サンリオ (文庫) (5/
15刊・¥380)

グレンジャー物の最終巻である。

「妹白鳥」が、ナイチンゲール星雲にある、空間の裂け目を調査に飛び立ち、消息を絶つ。一度は船を降り、自由の身となったグレンジャーだったが、再びへかんむり白鳥を駆り、ナイチンゲール星雲へとむかう。そこで、彼の見たものは……。

第一巻目から最終巻まで、シリーズ物が全て取り上げられるのは、本欄では異例のことである。しかも、このシリーズ、概して不評だった。意図的に攻撃したわけでは、決してないし、そもそも「SF」でなければ、扱うこともなかっただろう。だが、ステイブルフォードは根っからのSFファンであり、本シリーズもSFから離れることはなかった。SFであり続けたが故に、欠点は目に付きやすい——それでも、水準以下に極端に落ち込むという、不安定さだけは、少なくとも見られなかったようだ。実のところ、SFファンで、これだけ「SF」を書く作家は、日本では見当らない。少しウマくなったら、変わった味が出て、面白くなるんじゃないか、と思うのだが。本書は、シリーズ中では、一番起伏に富んでいて、面白い。